令和５年度　第６回梅坪台地域会議　会議録

■　**日　時**　　令和５年９月１２日（火）　午後７時～午後８時１５分
■　**場　所**　　梅坪台交流館　２階　多目的ホール
■　**出席者**

＜委　員＞	大谷　忠司	白井　　満	杉浦　　隆
	鈴木　重久	長江　秀昭	松川　幸江
	三岡　英隆	森田　　實	諸岡　裕一
	山村　史子	山本　孝宏	依田　武人
＜交流館＞	杉山　浩子（梅坪台交流館　館長）		
＜市長＞	太田　稔彦		
＜関係職員＞	辻　邦惠（企画政策部　部長）	野依　真人（企画課　課長）	
	西岡　雄志（都市計画課　担当長）		
＜事務局＞	後藤　哲也（地域振興部　部長）	岡本　裕之（地域支援課　課長）	
	松下　誠（地域支援課　副課長）	塚田　征弘（地域支援課　担当長）	
	谷口　明日菜（地域支援課　主事）		

■　**内　容**

1　開会
2　会長あいさつ
3　市長あいさつ
4　諮問・答申（協議）
（１）諮問書の授受
（２）諮問内容に関する説明
（３）質疑応答及び意見交換
5　連絡協議

■　**議事内容（要約）**

4　諮問・答申（協議）

（２）諮問内容に関する説明

企画課及び都市計画課が資料に沿って諮問内容に関する説明を行った。

（３）質疑応答及び意見交換

別紙のとおり

5　連絡事項

（１）諮問・答申に関する今後のスケジュールについて

１０月の地域会議までに、意見シートの作成をお願いした。

（２）第１０期地域会議委員の選考について

第９期（１期目）の委員に対して、再任の意向確認シートの提出をお願いした。

■　**今後の予定**

第７回梅坪台地域会議
１０月１０日（火）午後７時 ～ 梅坪台交流館 大会議室にて

別紙

＜意見交換＞【委】：地域会議委員　【市】：市長

【委】　豊田市は自動車産業を中心に栄えてきた町である。今まで石炭や鉄鋼などの企業によって栄えてきた町は、その後苦戦しているように感じる。今後豊田市は自動車産業を今まで通りの位置に据えて、施策を進めていくのか？

【市】　産業構造や温暖化など、これからの時代の変化要素を捉えて、柔軟に対応できるようにしなければいけない。発想の転換を前提にしないと、今後の計画はモノにならないと考えている。

【委】　「圏域をリードする」とあるが、ここでいう「圏域」とはどのようなイメージをしているのか？

【市】　施策によって「圏域」の意味は変わると考えている。委員の皆様の捉え方によって意味も異なってくると思うが、それで良いと思っている。

【委】　第８次総合計画の計画年数は８年だが、第９次総合計画は５年となっており、短くなっている。これに何か理由があるのか？

【市】　第８次総合計画は変則的になっている。この経緯についてお話したい。

２００５年に７市町村が合併し、２００８年～１７年の１０年間にわたる第７次総合計画を作成した。しかし 2008 年９月にリーマンショック、１０月にトヨタのリコール、そして 2011 年の東日本大震災が発生し、総合計画を作ったものの経済危機や自然災害により不安定な状況になってしまった。

このタイミングで自分が市長に就任し、２０１７年からスタートする総合計画を作ろうとした。このとき、団塊の世代が後期高齢者になる「２０２５年問題」がさかんに叫ばれており、２０２４年までに在宅医療の仕組みや地域包括ケアの仕組みなどを整えておかなければ、２０２５年が大変なことになると考えた。その結果、2017 年～2024 年という変則的な計画年数となった。

ところが、第８次総合計画の中盤でコロナを経験し、「１０年という計画年数であれ２０年という計画年数であれ、総合計画は持つのか？」と感じるようになった。このことから、今までの反省も踏まえ、「何か予期しない想定外なことが発生しても、立ち戻れるところ」を作ろうとした。今回の素案に記載した「３つの変える」は、そのための考え方である。

【委】　浄水や四郷の住宅開発でドーナツ化現象が発生しているが、ますます中山間地が過疎化するのではないか？

【市】　拠点性を重視し、あちらこちらに住むのではなく、拠点周辺の土地を利用し、より暮らしやすい山間地になるように進めていく。

【委】　後期高齢者になる人数が増加し、ますます高齢化社会が進んでいく一方で、DX が加速している。こういった流れについていけるのかという不安がある。デジタル化のサポートはどのように考えているのか？

【市】　「高齢者」の捉え方を変えていく必要があると考えている。現在は 65 歳以上を「高齢者」としているが、今の社会実感に合わない。75 歳以上を「高齢者」として切り替えれば、世の中の見え方が変わってくるのではないか。

「一人一役社会」として、70 歳になったら役職を下りるのではなく、80 歳

になっても役職を持ち続けることで、それが認知症予防・介護予防につながっていくと思う。

豊田市としては、高齢者を社会から見放すのではなく、自分らしく快適に生き続けることができる社会サポート体制を作っていくことが必要であると考える。また、誰もが自分らしく尊厳を持って暮らし続けられる「共生社会」が大切であると思う。

【委】　豊田市の今後の指針として「総合計画」を作っていると思うが、大きなテーマとして、どういう視点でこの計画を作っていくのかが見えない。方針・方向性を見せてほしい。

【市】　まだこの段階では、そこまで踏み込んではいない状況である。この資料は「前段の前段」の状況である。第８次総合計画の反省点を踏まえ、計画行政の難しさを感じていただき、どういう共通認識を持つべきかを考えてもらいたい。

また、ＳＤＧｓの取組も併せて計画に盛り込む予定である。ＳＤＧｓには世界共通の１７のゴールがあるが、豊田市にとって 17 ゴールだけでよいのかと考え、「子ども」・「愛着誇り」を 18 番目・19 番目のローカルゴールとして設けた。

【委】　豊田市は、全国から人が集まっており、人口も増えている。このような中で、子どもたち目線で都市計画を作るとよいのでは？

【市】　そういう議論の場は必要だと考えており、今回も総合計画を作成するにあたり、豊田高専※、豊田看護大学、中京大学、愛工大の４つについては学校へ出向いて議論する予定であり、若い人の意見を取り入れるための取組を行っている。（※豊田高専は終了）

また、地元の中学生に声をかけて、中学生版地域会議を作って議論を行うというような取組も必要だと考える。そこで挙げられた意見を一つでも採択して実現させることで、子どもに地元への愛着が生まれると思う。愛着が生まれるのは、自分の考えが地域に反映される・自分が住む地域の文化が評価される時だと思う。

他にも、人の魅力が大きいと思う。いつもしかめっ面をしているような大人がいる地域では、子どもは外に出ていってしまうと思う。例えば、京町自治区では子ども会の役割を担ってもらっているが、将来子どもたちが「京町はいいところだった」と話ができるような地域は強いと思う。そして、その情報を聞いた隣の自治区が「自分の地域でも取り組もう」となり、広がって行けば、やがて豊田市全体がよくなっていくだろう。

【委】　子どもに夢を持ってもらうような町は良いと思うが、夢を持ってもらうためには、その子どもの親（30～40 代）の意識が大切だと思う。

特に自治区で困っていることは、子ども会は嫌だ・役職に就くのも嫌だというように、親御さんに協力してもらえないことである。その年代を取り込むような方法は何かあるか？

【市】　時代は変わり、共働きが当たり前になっており、余裕がないためなかなか難

しいと思う。

大切なのは、今の現役世代がある程度の年齢になったら、地域に参加しやすくなるような状況・雰囲気づくりにしておくことだと思う。

また、指導者側の組織は固定的にして子どもは絶えず変わっていく「ボーイスカウト」のように、子ども会の役割を地域で固定的に担っていく方式もいいのではないか。

「親が地域に出てこないからダメだ」ということではなく、地域で賄うのが良いと思う。現役世代に仕事に専念してもらうその代わりに、余裕のある世代が子どもたちを応援するというような形である。

【委】　行政にやってもらっていることでありがたいこととして、「ゴミの収集」が挙げられる。身の回りをきれいにするだけでも気分がよい。

特に、資源ステーションに小さい子どもを連れて、きちっと分別した状態でゴミを出すところを見せることは、子どもにとって良い教育だと思う。

「モラル」は今後も非常に大きなベースになっていくと思うので、これからも維持していってほしい。

【市】　今の話と関連するが、日常生活の中には、子どもたちに伝えることがたくさんあると思う。

日々の交通安全に関する見守り活動について、非常にありがたいと感じているが、車の中から見てみると、横断歩道で大人がガチガチに子供を守っており、安全地帯を作っている。そうすると危機意識が身につかず、子どもは何にも考えずに歩くようになってしまう。

また、「ドライバーが自分に気付いていそうであれば渡り、そのまま進んできそうだったら止まる」というように、ドライバーとのアイコンタクトが重要である。そのような状況を学ぶ機会が、一番の子どもの教育の場であると思う。

豊田都市交通研究所の「ドライバーがどんな声掛けをされると響くのか？」という研究結果によると、「ありがとう」と声掛けされると響くとのことだった。交通安全の立哨では、「飲酒運転はダメ」「シートベルトをつけなさい」という文言が多いが、それでは効果がなく、「ありがとう」というバナーを出すことで、自分を評価してくれていると感じるとのことだった。

【委】　豊田市に来て 15 年くらい経つが、最初は豊田市が好きではなかった。しかし、今はすごく良いところだと感じる。

住んでいるのは梅坪台地域で、利便性は良く、駅近で住みやすいところである。一方で、少し足を運ぶと、自然があり田舎があるという位置にある。

自分は名古屋で働いているが、名古屋から帰ると山が見えて癒される。職場では、「田舎に住んでいる」と言われるが、自分にとってはうれしい。このように、気軽にちょっとした観光地に行けるというのが、街づくりの中で良いポイントだと思う。

また、大事するべきところは大事にし、変えていくべきところは変えていくという考えのもと、その都度話し合って考えていくのはいいことだと思う。

【市】　　自治体は観光情報を流す際、自分の自治体だけの地図を出すことが多い。豊田市は広域の地図を見せることができるので、多様なものを提供することができる。また、豊田市は山間部と都市部の両方が含まれているので、それぞれの地域に住む人の間で交流できる機会が多い。これが広域合併のメリットだと考える。梅坪台地域でも、ぜひ交流の場を設けていただきたい。